

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区
園名	アスク芝浦4丁目保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界

<テーマの設定理由>

園の特色でもあるキャストプログラムは楽しむ心や学ぶ楽しさを感じられるプログラムとして子どもたちも楽しみにしている活動の一つで、今回英語教室で言葉話す中で、様々な国があり、様々な国旗の違いに着目し探求できると更に興味が広がり楽しいかと考えたから。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにした。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

11月：*****講師の母国である国から興味を広げ日本以外の国に目を向けていった

12月：*****国旗の色塗りをして、いろんな国旗があることに気が付く

1月：*****自分だけのオリジナル国旗を考えてみる

2月：*****オリジナル国旗を描いてみる

3月：*****自分だけの国旗の発表（英語で言う）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

国旗カード、国旗図鑑・えほん、地球儀、国旗カルタを準備し、いろんな国の情報が自由に見られる環境を作った。

また、クレヨンや色えんぴつを使って色を塗り、いろいろな国旗を知ることが出来るようにぬりえを用意した。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

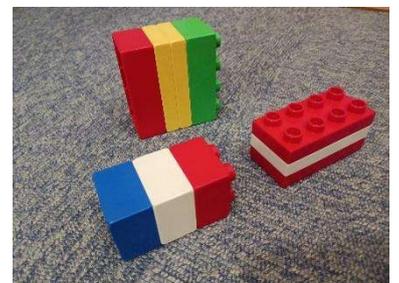
問いを考える：「みんなが住んでいるところはどこ？」自分の国を確認しながら他の国にも目を向けていき、その中で国旗の存在に気が付く。英語講師の母国を知りみんなが住んでいる日本とアメリカの国旗を比べて見たり、カードを使って「どんな食べ物があるかな」「これは日本かな？アメリカかな？」と言って環境の違いや文化の違いに気が付ける問い掛けをし、みんなで考えた。自分だけの国旗をつくらせたらどうするのがいいかな。などイメージが広がる声掛けをしていった。

探究活動の様子：

日本と他の国の違いに興味を持ち、中でもアメリカの国旗のデザインに「知ってるよ。見たことあるよ。いっぱい星がついているんだよね」と言って強い興味を示していた。国旗の色塗りをする英語教師と一緒に「ブルー」や「レッド」と英語の発音をしながら楽しんでた。その後、他の国の国旗にも目を向け、図鑑を見たり、年上児と一緒に国旗カルタなども楽しむようになった。ブロック遊びでは「なんか、ブロックでも国旗が作れそうな気がする」と言って、友だちを誘って一緒に色を集めたりしながら遊ぶ姿があった。色を集めたり、並べたりしながら楽しむ姿があり、「見て。見て」と言って友だちや保育士に得意げに見せていた。自分だけのオリジナル国旗作りは、色を意識し、好きな形を描いて楽しんでいた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

日本以外の国があることは知っているが、国旗に着目していくなかで興味がわいたように感じた。国旗を見ていくうちに色の組み合わせや形に興味を沸いてきて遊びにとりいれたりしていた。図鑑やカルタを使って年上の子と一緒に遊ぶことで、いろんな知識が身についていた。



【4歳児実施分】

問いを考える：「日本とアメリカはどこがちがうのかな」の問いかけに国旗の様子が違うことに気が付いた。カードを使って日本はどっちだクイズを行い、食べ物やスポーツから文化の違いを感じた。「国旗はいろんなものがあるんだね」というと色や形にの違いに着目し始める。「自分だけの国旗を作るとしたらどんな国旗がいいかな」とイメージが広がるように問いかけていった

探究活動の様子：

アメリカと日本の違いを問いかけ、イメージがわきやすいように絵カードを見せると、自分たちで知っていることを口にし、興味を持ち始めた。アメリカの国旗の色を塗る際は、星が気になり、数を数え友だちと共有していた。「しましまだね。これはどっちの色から塗るのかな?」と言って絵を見て塗っていた。英語講師に色を英語で発音してもらい真似たりしながら楽しんで行く姿があった。

自由あそびの際は、積み木で作ったサッカーゲームでは、いろんな国を対戦させて遊んでる様子も伺えた。オリジナル国旗作りは国旗図鑑やカードを見てイメージを膨らませながら描いていた。また、「自分の国旗を英語で紹介できる?」と問いかけると、「I Like Red」と自分なりに応えたり、英語講師に聞いたりしながら英語で発音することも楽しんでいた。みんなの前で発表する際は、「This is flag」と言って紹介をしていました。

ふりかえり（保育士の気づき）：

日本と他の国の違いから、国旗を通していろいろ広がっていく様子が伺えた。英語講師が英語で質問しながら色塗りなどを進める中で、英単語を覚えたり友だちに教え合ったりする姿があった。色に興味が出たり、色の配色で国をイメージしたりすることも増えた。



【5歳児実施分】

問いを考える：「世界には国旗があること知っている？」という問いかけから自分たちの母国の国旗を思い浮かべて特徴を話し、知っている他の国の国旗もそれぞれ口にする。カードを見せどっちが日本かのクイズをすると、「すもう・富士山・寿司は日本だよ」日本の特徴を感じていた。いろんな国を見ていく中で子どもの興味から、自分だけのオリジナル国旗を作るとしたらどんなデザインにするか問いかけるとイメージを広げる為に更に興味が広がりいろんな国旗を見て探求していく様子があった。

探究活動の様子：

自分の国の国旗の特徴を話し合い、英語講師の母国のアメリカの国旗にも興味を持った。それぞれの国の位置を地球儀で確認し、カードを並べ食べ物や文化の違いを感じながら自分の知っている知識を伝えている子どももいた。アメリカの国旗を見ながら色を塗ると、「星がいっぱいだね」「いくつあるのかな」「1.2.3.・・・」と星の数を数えると「今は50個あるんだよ」「昔は13個だったんだって」と知っている知識を友だちに教えながら興味を持っていた。「シマシマって赤と白だったよね？どっちからはじまるのかな」「どっちでもいいんじゃない？」「赤から始まってよ」など色の順番も気にしていた。部屋に図鑑やカルタなどを置いておくと、普段の遊びの中で更に興味を持ちはじめ、遊びに取り入れる姿があった。国旗カルタでは、「アメリカあったよ」「アメリカの星の数は州の数なんだって」と話しながら更に興味を深めて行く様子があった。また、3人ずつのグループに分かれて問題を出し合いながら国をあてていくゲームを行った。「黒と赤と黄色」と言うと、「あ、あれあれ！ドイツ！！」と頭に浮かんできた国旗を得意気に言い当てる姿もあった。いろんな国のいろんな国旗を見た子どもたちに「みんなだったらどんな国旗がいいかな？」と問いかけると「やっぱり星はついていた方がいいかな・・・」「色はいろんな色にしたい」とイメージを膨らませながら話す姿もあった。「自分だけの国旗をデザインしてみる？」と問いかけると「うん。いいね」と言って更にイメージを膨らませていった。いろんな国旗を見て更にイメージがわくようにグループに分かれ図鑑を開きながらそれぞれの国旗の特徴をはなしあった。いざデザインをしようとするとなんとなく悩む姿もあったが一人が描き始めると自分の好きな形や色を入れながら楽しんでいった。英語講師が英語で色や形について質問したりしながら英語でも特徴が分かるようにしていった。最後はみんなに見せて英語で発表をした。発音の仕方や単語がわからない時は講師にどのように言えばよいか質問をし、真似て発表を行っていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

元々、世界に目を向けたり国旗に興味がある子どももいたが、あまり興味がなかった子どもも巻き込まれて楽しく探求していく姿があった。驚いたことに子どもたちが元々知っている情報や知識も高くそれを周りに伝えていく事で更なる興味に繋がっていた。園外保育に出た際も、お店の前にでていた看板に国旗があると「アルゼンチンの国旗があった」と目に留まったり、色の並び順をみて「フランスみたいだね」と子どもたち同士で話している様子もあった。





とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区
園名	アスク芝浦4丁目保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設定理由>

園の特色でもあるキャストプログラムは楽しむ心や学ぶ楽しさを感じられるプログラムとして子どもたちも楽しみにしている活動の一つで、そこから遊びが広がることも多く、今回発表会でも楽器を使うことから音の仕組みを探究していくと更に楽しさが広がるかと考えた。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月：*****絵本から感じるオノマトペ

12月：*****歌から聞こえるオノマトペ/物を使って音を出してみよう

1月：*****音はどうしてなるの？/音のなる仕組み

2月：*****音の種類を知る/膜鳴楽器と体鳴楽器

3月：*****自分で作った楽器で演奏しよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

絵本や歌から始まり、身近で音が鳴るもの(ペットボトル・割りばし・空き箱・缶など)を用意し、自由に音を鳴らして楽しめるようにした。また探究が進んできた環境に合わせて、本物の楽器を用意し(カスタネット・トライアングル・和太鼓・マラカス・ウッドブロック・ギロ・鈴・ピアノ)いろいろな音の出方を楽しんで不思議に思ったりできるように設定した。

【3歳児実施分】

問いを考える：

絵本から聞こえてきた音「オノマトペ」を見つけるところから始まり、身近な音を「オノマトペ」で表現する。音の面白さに気が付き音はどうしてなるのか。仕組みについて考える。

探究活動の様子：

音楽講師が絵本の読み聞かせを行い、聞こえてきた音があったら教えてほしいと伝えるたことで興味がわき始める。音や動作、感情をまねて表現することを「オノマトペ」ということを知り、更に興味がわき、身近な「オノマトペ」探しが始まる。絵カードを使ってクイズをしながらいろんな「オノマトペ」があることを知り、「わんわん」「ブーブー」など連想しながら口にして楽しむ。一番興味を持ったのが感情の「オノマトペ」「ニコニコ」「しくしく」「プンプン」など動作をつけて表現することを楽しむ姿が見られた。「じゃあ、みんなでオノマトペ見つけてみる？」とオノマトペビンゴカードを用意すると「やりたい」と言って興味を持ち、絵から連想するオノマトペを行ってみていた。「雷だ。ゴロゴロだね」「お料理はトントン。切っている音だよ」など友だちに自分のオノマトペを教える姿があった。その後は普段の生活の中で音見つけを行い楽しんでいた。今度は歌の中でもオノマトペを見つけ、ペットボトルや身近なものを使って音を出してみることにした。カエル合唱の「ゲロゲロゲロゲロ」の部分はどやって音を出せばいいんだろう。と問いかけると「やってみる」と言って割りばしを使ってペットボトルを叩いたり倒したりしながら音を工夫してだしていた。また、聞こえた音を「カランコロン」とオノマトペで表現することも楽しんでいった。身近な物を使って音を鳴らすことを楽しみ、「聞いていて、こうやって叩くとコンコンなのにこうやって叩くとカンカンってきこえるよ」と叩き方で音の違いがあることにも気がついた。いろんな音を楽しんだあと、音の伝わり方をおんがく講師に教えてもらい振動によってなることがわかり、歌を歌う際も喉を触ってみたり、トライアングルの振動がおきる部分を触って感じた。3人ずつのグループに分かれ自分で楽器を作ってみた。「太鼓のような膜鳴楽器は膜が薄いから折り紙で作れるかな（膜鳴楽器）」「鈴はビーズ通しを揺らせば鳴るかな（体鳴楽器）」など考えがあふれ出てきて、似たものを探し提案しあっていた。おんがくでは音楽を耳で聞き、聞こえて来た音の出し方を考えていった。音の出方がいろいろあることに気が付いたことにより、いろんな出し方を表現する姿があった

ふりかえり（保育士の気づき）：

オノマトペ探しから始まり、部屋の中でも散歩先でも音に耳を澄ませるようになり、楽しんでいく様子が見られた。また、おうちのひとに「オノマトペ」知ってる？と言って得意げに教える姿もあり日々楽しんでいく様子があった。音の出方を徐々に知ることによって更に音を楽しむようになった。膜鳴楽器、膜鳴楽器は理解できているようだった

4. 探究活動の実践



【4歳児実施分】

問いを考える：

オノマトペが出てくる本を読み、オノマトペとはどういうものなのかを知る機会を作っていき、音の「聞こえ方」や「出し方」、「伝え方」を知り、音の仕組みについて考えていく

探究活動の様子：

音楽講師に「がちゃがちゃドンドン」の絵本を読んでもらい、音を言葉で表現することに興味を持ち始め、「オノマトペ」を知っていった。「オノマトペって面白い言葉だね」と言って「にゃーにゃー」「どんどん」など音を見つけて楽しんでいた。オノマトペビンゴカードでは鳥の絵を見て「パタパタ」と表現したり「ピッピ」と言ったりしながら同じ絵でもいろんな表現の仕方があることに気が付いていた。お部屋では普段の生活の中であるオノマトペを見つけをした。みんなで一度静かにして耳をすませ、いろんな音に気が付いた。「水槽の音がポコポコするよ」「カンカン」「外の工事の音かな」など自分が感じた音を口にする姿があった。3人ずつのグループに分かれて歌から見つけた鳴き声のオノマトペを身近なもので表現した。床や壁にペットボトルを当てて音を出してみても音の違いを感じていた。カエルの合奏で「鳴き声をどうやって表現する？」と問いかけるとペットボトルの凹凸を割りばしでこすって「ゲロゲロってカエルみたいに聞こえるよ」と表現してみせていた。その後も他のものでカエルの鳴き声はできないかブロックやおまごとのコップを見たりと音探しは続いた。いろんな音探しを十分に行ったあと楽器を実際に鳴らし「なんで音が出るのだろう」とみんなで考えた。「トライアングルは、チーンって大きな音がする」「グラグラする音がする」「ビリビリするよ」と感じることを言い合った。おんがくの講師に音の出る仕組みについて教えてもらい、振動で振るわせてなることがわかった。太鼓のように膜を振るわせる「膜鳴楽器」と楽器そのものを震わせ鳴る「体鳴楽器」があることが分かった。3人ずつのグループに分かれて話し合っ自分たちで楽器を作ってみた。膜鳴楽器：木琴⇒写真で木琴観察して「だんだん小さくなっているね」と言ってトイレットペーパーの大きさを変えて作成。体鳴楽器：太鼓⇒紙を何枚張ったらいいいかな1枚だと破けちゃうかな。叩きながら確認しながら作成。作った楽器を講師に見せながら説明し鳴らしてみせた。その他、弦鳴楽器を写真で見せてもらいイメージを膨らませた。音楽を流し楽器を拭く真似をして楽しんだ。

ふりかえり（保育士の気づき）：

絵本のオノマトペから始まり、日常の音にも耳を傾け興味を持つ姿があった。グループでビンゴカードを埋めていく中で音の表現の仕方はいろいろあることに気がついたり、楽器に触れ音の仕組みを知ることで徐々に興味が広がって行く様子を感じた。



【5歳児実施分】

問いを考える：

オノマトペが出てくる絵本を見て興味を持ち、日常生活の音に耳をすませ音を感じ、表現することを楽しむ中で音の仕組みについて考えていく

探究活動の様子：

オノマトペが出てくる本をおんがくの時に講師に読んでもらい、音を言葉で表現することを楽しむ。絵が描かれたオノマトペビンゴカードから連想できる音を考えていき自分なりに表現した。3人ずつのグループに分かれ自分のビンゴカードから連想する表現を伝えあうと同じ風の絵でも「ビュービュー」や「ひゅーひゅー」と表現の違いがあることを感じていた。その中でも「ビュービュー」は風が強そうだね。「ひゅーひゅー」は寒そう。など音から伝わるイメージを伝え合う姿も見られた。お部屋では日常の中であるオノマトペ探しをした。水道の蛇口から出る音は？保育士が水を出すと「ジャージャー」少し閉めると「ちょろちょろ」もっと閉めると「ぽたぽた」と子どもたちの表現の仕方が変わっていった。水が出る量によってオノマトペが変わるんだね。「これなんだ」とおんがくの講師が隠しながらペットボトルで音を鳴らし、身近にあるもので音を出して表現する楽しさを伝えた。「こんこんこんこんくしゃん」の歌にあわせて部屋にあるものを鳴らして表現できるか音探しを3人ずつのグループに分かれて行った。おままごとのカップを指ではじいたり叩き合わせたり様々な音の鳴らし方を考えている姿があった。また出てくる動物によって音の大小を考えて表現をしていた。音はどこからなっているのか。の問いかけにより、話合いが始まる。和太鼓⇒「ひもで木に皮を押し付けて固くなって叩くと音が鳴る」「端は音がならないよ」「気の中が空洞だからかな」ハンドベル⇒「鉄にプラスチックがあたってるからかな」マラカス/エッグシェイカー⇒「小さい粒が入ってる」「どんな粒かな」「僕が想像するには木だと思う」「木だと音が響かないんじゃないかな」「丸い粒が大量に入ってる」「ぶつかり合ってるんじゃないかな」カスタネット⇒「下に丸いところがあるからそこがあたって音がする」鈴⇒「中に鉄の丸が入っていて鉄の壁にぶつかって音がする」

トライアングル⇒「鉄と鉄がぶつかって、ぶるぶる震えて音が鳴る」「切れ目があるのはブルブルが出てくれるように」など音の仕組みについて自分たちの考えを伝えあった。鈴は穴をふさいぐと音が鳴らないことが判明。「空気があり鉄の丸と鉄の壁があるからなるんだ」と答えを見つけ出す様子があった。おんがくの講師からも振動で鳴ることを聞き、更に太鼓のように膜を振るわせる「膜鳴楽器」と楽器そのものを震わせ鳴る「体鳴楽器」があることが分かった。みんなで太鼓を作ってみた。子どもたちの声により段ボール、プラスチックの箱（空洞があるもの）、ビニール袋を用意した。「ビニールはピンと張った方が音が鳴るね」と音をチェックしながら作っていた。おんがくの講師にも見せみんなで音をならした。また、更に弦鳴楽器があることを聞き、音を聞きながら「ホルン知ってるよ。吹くんだよ」といって鳴らす方法が広がっていく姿が見られた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

オノマトペから始まり、日常の中の音に耳をすませ、音を見つけていく姿があった。また、音の仕組みの話し合いではかなり真剣な表情で楽器をよく観察し、自分の考えを伝えたり、友だちの意見を聞いたりしながら探求が深まっていく様子が伺えた。音の出し方も最初は叩くなどの方法だったが、いろんな方法があることがわかり、最終的には「吹く」など表現の仕方が広がっていくのがわかった。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区
園名	アスク芝浦4丁目保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「ボール」とは？

<テーマの設定理由>

園の特色でもあるキャストプログラムは楽しむ心や学ぶ楽しさを感じられるプログラムとして子どもたちも楽しみにしている活動の一つで、そこから遊びが広がることも多く、今回、普段遊んでるものに着目しながら探求できると楽しいのではないかと考えた。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方について子どもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるような助言をもらった。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と体操講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月：***** ボールを触って素材を感じる

12月：***** 投げやすいボールと取りやすいボールを作る

1月：***** 遠くに飛ばすためにはどうしたらいいのか

2月：***** いつも使っているボールと比べてどうか性質の違いを知る

3月：***** ボールを使った動き/方法について

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

新聞紙・プチプチ・テーブル類・アルミホイル・毛糸・風船・あみなどを用意し、ボール作りのイメージがふくらみやすいようにした。様々なボール(布ボール・ゴムボール・サッカーボール・お手玉・カラーボールなど)を用意し、特徴の違いが感じられるようにした。

子どもの声により、トイレトペーパーの芯・バネ・ティッシュの箱などを追加で準備しイメージに近づけるようにした。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

ボールを触って素材を感じたり大きさの違いを見たりしながら「投げやすいボール」「取りやすいボール」について考えてみる

探究活動の様子：

普段遊んでいるボールをよく観察し、体操講師の「ボールって何でできているのだろう」という問いかけから始まった。触ってみてどうか尋ねると、「ぶにぶにしてる」「固い」「重い」と様々な意見が出た。自分の頭の高さからボールを落とし「弾む」を体験。更にキャッチすることも意識する。なかなかうまくいかずキャッチできずコロコロと転がるボールの性質も体験していく。講師と1対1でキャッチボールをし、バウンドをさせながらキャッチをするなどしながらボール投げの面白さやボールの性質を感じていった。講師が優しくゆっくり投げるとキャッチのしやすさがかわった。「投げやすいボール」と「投げやすいボール」ってどういうのだろうという言葉がけによって自分たちで考えてボールを作ることになり、3人ずつのグループに分かれ考えていった。「テープをぐるぐるに巻けばいいんじゃない?」「重い方がいいかな」「毛糸を巻いたら滑らないんじゃないかな」などいろんな素材を触りながら探求していく様子が見られた。体操講師に自分たちが作ったボールを見せながらキャッチボールをしたがあまり思うようにならず・先生まで届かない。「どうやったら遠くに飛ぶのかな」実際に廊下に出て確認しながら「テープをもう1回巻いてみようよ」と考えて行く姿があった。重さが少し加わって少し改良され飛ぶようになってきたことに喜ぶ。どのボールが投げやすかったか聞くと「毛糸で巻いたボール」と言う子が多かった。今度は実際のボールと比べてどっちが投げやすいかな。「いつも使っているボールは柔らかいけれど空気をもっと入れたら硬くなるよ」「硬いのと柔らかいのはどっちが投げやすいのかな?」ボールは投げるだけじゃないんだよね。他にどう使うか知ってるかの問いかけに「キック」「蹴る」とイメージを膨らませた。じゃあ今度はキックをしてみよう。どれが蹴りやすいかな。いろんなボールを用意した。色々試して行く中で、大きいボールの方が蹴りやすいと自分たちで気が付き始めた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

子どもたち同士で話し合い、ボールを考えて作っていく様子が面白かった。3歳児でも話し合っていてイメージしたものを伝えあったり方法を見つけて行くことができた。いつも使っている物でも、考えていくといろんな発想が生まれるものだと感じた。



【4歳児実施分】

問いを考える：

ボールの特徴からいろいろな考えたり自分たちで考えたりしながら、不思議に思ったりしながら「投げやすいボール」「取りやすいボール」を考えてみる

探究活動の様子：

体操教室でボールを使った活動をし、キャッチボールをすることによってうまくやるにはどうしたらいいんだろう・・・と思うことから始まった。「ボールは何でできているのかな」という問いかけに対し、「なんかぷにぷにしてる」と感触を確かめていた。講師がゆっくり大きく投げしてくれたよ「あ、取りやすくなった」と投げ方によっても取りやすさが変わることを感じた。どんなボールが投げやすくて取りやすいんだろう・・・と3人ずつのグループに分かれて考えてみた。「小さいボールが取れるんじゃない?」「野球で使っているボールは丸いから丸がいいんじゃないかな」「家でタオルでキャッチボールしたことあるよ」「タオルは四角だから四角じゃない?」「大人にならないと大きいボールってもてないから大きさはこれくらいがいいかな」「風船に水を入れて重くしよう」など様々な意見が飛びかい探求していく様子がみられた。体操講師に作ったボールを見せながら実際に作ったボールでキャッチボールをしていくと思った結果が出ず苦戦する姿もあった。最強のボールを作るために投げやすいボールを更に取りやすくしたらどうかという問いにグループに分かれて話し合うことになり、「投げやすいのはゴツゴツさせたら取りやすくなるのでは」取りやすいのは水を入れて作ったから水を入れなくて網をつけてみよう。などいろんな意見がでた。「投げやすい」「取りやすい」の他に、「遠くまで飛ぶ」という事も意識して探求していく姿もあった。自分たちが作ったボールは他の方法ではどうか試すことになった。道具を使いたいとボールが入る入れ物やおもちゃのフライパンなどを使って試していった。体操講師からの「投げるだけじゃなく、ボールは他の使い方もあるよね」という言葉に「ころころ転がす」と他の方法にも気が付き、「ボーリングだ」と言って転がす遊びがはじまった。ボーリングだと片手で持てないとダメだ。大きすぎると持てない。

ふりかえり（保育士の気づき）：

ボールについていろんな性質があることを知っていく姿がみられた。話し合うことで一人ひとりのイメージしたものが形になっていく様子も面白かった。やる動作によってボールの特徴も変わることに気が付きはじめているようだった。



【5歳児実施分】

問いを考える：

ボールを使って遊んだりゲームをしたりする中で、「ボールってなんで転がるんだろうね」という問いかけによってボールの性質を考えながら「取りやすいボール」「投げやすいボール」について考えた

探究活動の様子：

ボールは丸いから転がるんだよね。この形が大事。まずは形の特徴に気が付く。座ったままボールを上に乗せ、更に特徴を感じやすいようにした。「投げやすいボール」「取りやすいボール」について考えてみることにした。3人ずつのグループに分かれて話し合った。「風船は軽くて飛びやすいからいいんじゃない?」「でも着地するのは遅いよ」「ボールは丸だから風船の周りに何か貼ってから形を整えようよ」「3人で1回投げようよ。投げた方がわかりやすいよ」と言いながら意見を出し合って実際に動いたりしながら探求していく姿があった。また、「先に紙に描こう」と言って図案を書いたりやってみることを文字にして自分たちで考えながら進めていく姿があった。「風船に紙を詰め込んで固くした投げやすいボール」と「風船の周りにプチプチをつけて滑り止めをつけた投げやすいボール」が完成した。体操講師に完成したボールを見せ、こだわったポイントや理由を話しキャッチボールを行った。実際になげてみると「投げやすいけど小さくて取りづらかった」「取りやすいけどまっすぐ投げられないな」など感想を言い合った。両方の改善点を踏まえてもう一度作ることにリベンジすることになった。今度はもっと性質を上げるために3人のグループに分かれて投げやすいボールを取りやすく、取りやすいボールを投げやすくすることにした。「落下速度が早すぎるから中に入っている新聞紙を取り出そう」以前より風船をふくらまし、大きさも変えた。もう一つのボールはザラザラして飛ばなかったから、ティッシュの箱を細かく切って重しにして貼り付けよう」「ザラザラは投げやすくする為にそのままにしておこう」など作戦会議の様に話し合いがはじまった。体操講師に説明をしながらキャッチボールをした。実際にやってみるとスピードが出て遠くに飛ぶようになった物もあった。遠くに飛ばすにはどうしたらいいかなという体操講師の問いかけにより、手で投げる方法だけでなく道具を使う方法もあるということになり、「ラケットとかで飛ばしたらいいんじゃない?」「大砲作ろう」など声があがり、ラケット作りと大砲作りが始まった。「大砲はバネを使おう」「バネの力で飛ばそう」と目を輝かせながら話し合う姿が見られた。実際にボールを飛ばし何度も改良を重ね素材を変えたりしていく様子もあった。

ふりかえり（保育士の気づき）：

年長クラスなものもあって、自分たちで話し合いどんどん進んでいく様子が見られた。ボール作りに苦戦しながらも実際の試したり話しあって探求していく様子も見られた。作品展で「すくわくプログラム」のコーナーを作ると夢中になっておうちの人に話していく姿が見られた。ボールの性質について、素材や大きさだけでなく、重さでスピードが変わる事や投げ方や動作によって変わることも学んで行く様子があった。また、大砲作りでは、バネのつけ方に苦戦したり、悩んだりしながら進めたいた。



